

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491400061		
法人名	ヘルスケアサポート株式会社		
事業所名	グループホームいなべ		
所在地	三重県いなべ市員弁町松之木367-1		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2491400061-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 05 年 1 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に生活意欲の向上と楽しいを感じていただけるよう支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周りは住宅・田畑が広がり、西に鈴鹿山脈、東に多度養老山脈が連なる自然豊かな環境下で、開設して13年経過している。その間、施設長(管理者・介護支援専門員・介護職を兼務)のリーダーのもと、地域に根ざしたホーム作りが確立している。新型コロナウイルスが発生して丸3年、いまだ収束のめどが立たず、家族との面会制限、外出制限などが続いている。食べるのが楽しみで、美味しいものを提供する支援に努めている。面会に来られた家族に見てもらうように、玄関先の壁に生活の様子や食事風景など楽し気な写真が大きく引き伸ばして展示してある。新しい年が始まり、職員と合作の干支の兎の貼り絵が季節感を醸している。毎年利用者が家族へ年賀状を出しており、投函する前にカラーコピーをしてリビングの壁に掲示してある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の笑顔が絶えないように、信頼関係を築く	理念『笑顔と信頼』は、額に入れて玄関に掲げてある。穏やかな表情・笑顔で言葉をかけたり、言葉が出にくい利用者にはホワイトボードを使って伝えるなど双方のコミュニケーション作りに心がけた支援を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のために散歩に出る機会が少なくなっている。気候の良いときに散歩に出かけ、地域方と挨拶ができるようにする。	コロナ禍で地域との付き合いが希薄になっている。しかし、コロナ禍であっても散歩や外気に触れる支援は続けており、散歩の途中で出会う地域の人たちと挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について相談があればじっくり聴かせて頂きます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開催出来なかった。事業計画や施設の運営状況を報告する。	コロナ禍で、感染防止のため推進会議は開催できなかった。代わりに、この1年の活動報告等を書面にて報告をした。	まとめて1年分の一括報告ではなく、推進会議は2か月ごとの開催が求められているので開催が出来なくとも、その期間内の事項として文書で記し報告を求めたい。双方の意見交換ができるように工夫を期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに困難事例として相談に乗っていただきました。	市の直轄である地域包括支援センターの職員とは、利用者のみならず、家族のことなどを含めて、相談し協力体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居様に苦痛のない環境、介助について職員同士提案する。	身体拘束・言葉による拘束・薬の拘束など拘束の弊害については、職員会議などでの研修時に学んでいる。また、帰宅願望のある利用者が外に出ようとするのを制止するのではなく、一緒にバス停まで歩いてバスが来ないのを確認をして戻ることがある。	拘束について、委員会ははじめ研修の議事録の整備を期待する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ナンプグループ全事業所の取り組みとして、虐待防止ポスターを各施設に掲示し、随時職員は虐待防止について話し合う。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に出ることが難しいので、職員の知識向上のために経験が浅い職員に、互いに情報交換する様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様には必ず締結契約時には説明させていただき、また、疑問点についてはきちんと納得頂けるまで説明いたします。改定時は説明させていただき、同意書を取りかわさせていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時など常に話をさせていただき、遠慮なく本音で話していただけるような、関係づくりを行い、要望があれば対応させていただきます。	コロナ禍であり面会は制限しているが、玄関での面会・居室から窓越しでの面会・時間制限を緩和するなど工夫をしている。玄関では壁に食事風景や日ごろの様子を大きな写真展示にして見てもらっている。家族へホーム便りを月に1回、送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内容の改善や見直しについて、働きやすい職場にするために、意見交換させていただきます。	職員のだれもが対応できる体制作りを心がけている。昨年、外国人実習生が入り、利用者も職員も今までと違った刺激・緊張感を受けて、業務の見直しや改善につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自信を持って仕事ができるように、役割分担で仕事内容をきめています。休憩をとりやすくし、気持ちの切り替えをしてもらいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会は今年は出来なかった。法人内で研修を受ける機会を作る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や関連施設の訪問を行い、支援について意見を聞く取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わり落ち着かないときには職員がじっくりそばに寄り添い、一人じゃないことを伝える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様のつらい気持ちをじっくり傾聴し、入居者様が落ち着いて生活していただけるよう努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集をしっかり行い、本人・家族の不安を少しでも減らせる生活空間を作る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が共存している施設。ご自身の存在を感じていただくようにします。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に施設での生活の様子を説明させていただき、自宅で過ごされていた様子を聞き支援に協力いただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の（希望）話を聞かせていただき、連絡が取れるよう努める。	馴染みの場へ行くことや人の来訪はないが、年賀状・暑中見舞いはがきを出す支援は継続している。年賀状は投函する前に、カラーコピーをして廊下の壁に貼られて、いつでも振り返り見ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様で好みのお茶などを飲みながら談笑出来る雰囲気づくりをします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族様とも連絡が取れる関係を続けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	じっくり話を聴かせて頂き、寄り添える関係を作ります。	人はどんな状態であっても思う心はあるので、利用者が思いをうまく表現できなくて伝えにくい時は、ホワイトボードを使って、思いを表出できるようにしている。互いに分かり合えることでコミュニケーションができて効果が上がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までやってきた畑仕事や掃除を一緒にやります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムを大切にしながら、体調不良の訴え等があれば休んでいただきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状にあわせた支援ができるよう常に状態変化に気づき、意見やアイデアが出せる計画にする。	管理者が介護支援専門員を兼務しており、アセスメントをとり、長期目標・短期目標を決めて介護計画を作成している。期間ごとにモニタリングを実施、更新時はサービス担当者会議を開き検討して、家族へは電話で確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	交代勤務の為、情報が途切れないよう記録し、ケアの統一をさせていただく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者が苦痛なく過ごせるよう本人や家族の要望等に常に耳を傾け、柔軟なサービスにて支援させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ、地域の方々とコミュニケーションが取れるようにします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の苦痛を直接主治医・看護師に話せる機会を作っている。	利用者全員が協力医療機関の医師がかかりつけ医となっており、月に1回訪問診療がある。2週間に1回バイタルチェック等でそのクリニックの看護師の訪問がある。歯科は訪問診療があり、他科については家族が通院し、職員も同席して医師の所見を聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の体調等で不安な時はチームで共有し、看護師がかかりつけ医に報告し、指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は施設でのご本人様の状態を報告させていただき、可能な限り同行いたします。また入院中は、医療機関・家族と情報交換を行い、退院後の不安軽減に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化時は説明させていただき、終末期の迎え方について考える時間をもていただきます。主治医からの説明を受け家族の意向決めていただきます。本人の苦痛を少しでも軽減出来る様な支援をチームとして行います。	協力医療機関の主治医から、この地域で在宅医療に特化した看取り専門の診療所の紹介があり、そこでの看取り支援を医師の指導のもとで実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、通報訓練・消火訓練を職員全員で行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的に行って、災害時の対応ができるようにしております。備蓄品の在庫確認も年2回行い、期限切れがないようにしています。	年2回、火災を想定した消防訓練を実施している。昨年外国人実習生が入り、火災通報機や消火器等々の取り扱い、使い方などを改めて実習し直す機会ととらえ訓練を実施した。発電機も備えて、備蓄についてもコメ・水など点検を怠らずに備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着替え・排泄介助時、1人のお客様としてのプライバシー・人格を損ねないような声掛けを行います。	羞恥心を伴うことについては、声がけをはじめ利用者一人ひとりに寄り添う対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人の意思を大切にさせていただき、起床時間等本人の決定が出せる様にします。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ、ホールで過ごす・居室に戻る・レクリエーションの参加も本人の意思に沿って行います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を整えたり、衣服の乱れ・汚れ等は職員が気づき、似合う服を着てみえたら、褒めさせていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様がおいしく召し上がれるようメニューをボードに書いたり、下準備・茶碗洗いを一緒にしています。	食事は楽しみであり大事なことで認識をしている。週に4日(水・木・土・日)は調理専門の職員が作り、他は業者によるレトルト食品を湯煎で戻し提供している。おやつは手作りにしたり、希望を取り入れている。鏡開きでぜんざいをして喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様がおいしく召し上がれるよう、形状・量・食器を個々に変えたり、お茶だけでなくココアやゼリー・乳酸菌飲料等を摂っていただきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいの声掛けを行い、できないところは支援させていただきます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排尿状態に合わせてトイレ誘導させていただき、立位が難しい方も2人で排泄介助にてさせていただきます。	トイレでの排泄は人格の尊厳・自立支援につながり、立位が困難であってもオムツを使わず職員が複数で介助し、トイレで排泄する支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量・飲水量の記録確認を行い、脱水に気をつけ、食べ物の工夫・体操等運動を取り入れてます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴も一人一人ゆっくり安心して入れるよう時間をかけて入っていただいております。体調がすぐれない日は翌日に入ってもらいます。	入浴は週2～3回、月曜日を除いて毎日湯を沸かしている。時には、安全第一に無理をして浴槽に入ることはしないで、シャワーを活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠しやすいように夜間温かい飲み物を提供したり、空調管理・採光にも気をつける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は毎日の服薬を確認し見守りを行います。飲み込みが悪いときは薬の変更等をDrに相談します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人にできること、好きなことをやっていただきます。役割を持っていただき、自己肯定をもっていただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為外出ができないので、落ち着いたら本人の希望がかなえられるよう支援させていただきます。	コロナ禍であり、遠くへの外出はできないのが続いている。周辺は田舎道で草花を愛でながら、天気が良い時は、散歩に出ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の金銭所持はありません。必要であれば立て替えさせていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いなど、家族あてに自書で出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全・清潔に過ごしていただける様、整理整頓に心がけ、空調・照明・湿度の管理を行っています。季節を味わっていただける空間作りを大切にいたします。	天窓があり明るい日差しが差し込んでいる。リビングからガラス越しに、畑の野菜が見れて季節を感じられる。自作の年賀状や節分の鬼やお福さんの貼り絵などが飾られている。窓も少し開けて空気清浄されて、清掃も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の入居者さまとコミュニケーションをとっていただけるよう、ソファ・畳等用意させていただきます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で衣服等の管理ができる方には、本人が使いやすいように片づけて頂いております。	それぞれ思い思いの物を持ち込まれており、自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態を把握し、健康・身体機能の維持のためにも、ラジオ体操・嚙下体操など無理のない動作・運動レクを取り入れています。		